

RECEIVED!

NOV 5 1984

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE GROUP 120 .

.~					CERTIVI	CATE OF MAILING	
	Applicant	:	Takao YOSHIOKA et	c al	corresp with th	y certify that this ondence is being deposited the United States Postal as first class mail	
	Serial No.	:	644,996		Commiss	nvelope addressed to: ioner of Patents and rks, Washington, D.C. 2023h	
	Filed	:	August 28, 1984			date noted below:	,
_	Art Unit	:	125		Attorne	v:	
	Examiner	:				Óctober 23, 1984	
			SUBMISSION OF:	() FORMAL	DRAWINGS	× •	
				(×) PRIORIT	Y DOCUME	 NT 683	
	Honorable Com Washington, D	miss . C.	sioner of Patents and				
	Sir:					•	
		Enc	losed are:				
		() Formal drawings -	she	et(s), F	lgs. 1;	
		(X	() Certified copy(%	s); priority	is claime	ed under 35 USC 119:	
			Country	Application	on No.	Filing Date:	
			Japan	158375/	1983	August 30,,1983	

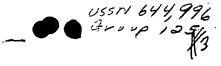
Respectfully submitted,

HG/fs..

Frishauf, Holtz, Goodman and Woodward, P.C. 261 Madison Avenue New York, N. Y. 10016 (212) 972-1400

HERBERT GOODMAN REG. NO. 17,081 BEST AVAILABLE COP





本 国 特 許 PATENT OFFICE JAPANESE GOVERNMENT 庁

付の存類は下記の出願各類の膾本に相違ないことを証明する。 vio certify that the annexed is a true copy of the following application as filed

日 日 Application:

1983年8月30日

番号 ion Number:

昭和58年特許願第158375号

特許庁長官 Director-General, Patent Office



出証昭 5 9 - 1 9 7 4 0



特 許 願 (特許法第38条ただし書) の規定による特許出願

昭和58年8月30日

(6,300円) 特許庁長官 若 杉 和 夫 殿



1. 発明の名称

ュウトウタイ セイゾウホウチアゾリシン誘導体およびその製造法

- 2. 特許請求の範囲に記載された発明の数 3
- 3. 発 明 者

氏名 吉 岡 孝 雄 (外4名)

4. 特許出願人

住所 〒103 東京都中央区日本橋本町 3 丁目 1 番地の 6 名称 (185) 三 共 株 式 会 社 代表者 取締役社長 河 村 喜 典

5. 代 理 人

居所 〒140 東京都品川区広町1丁目2番58号 三共株式会社内

弁理士 (6007)

電話 492 - 3131

6. 添付書類の目録

(1) 明 細 書

氏名

- (2) 図 面
- (3) 委任状
- (4) 願書副本



1通

なし

1 通

1 通

方式备查

樫出庄治

58 158375



前記以外の発明者、特許出願人または代理人

(1) 発 明 者

> シナガワク ヒロマチ 東京都品川区広町1丁目2番58号 居所

> > カ ガクケンキユウショナイ

三共株式会社化学研究所内

** 沢 氏 名

居所 所

クルマ 氏 名 車 \blacksquare 知

シナガワ ク ヒロマチ 居所 東京都品川区広町1丁目2番58号

> サンキョウ セイプッケンキユウショナイ 三共株式会社生物研究所内

氏名 山 光

居所 口

カズ 推 氏名 長 Ш 和



明 細 書

1. 発明の名称

チアソリシン誘導体およびその製造法

- 2. 特許請求の範囲
 - 1. 一般式

ノ基を示す。〕で表わされるチアゾリジン誘導 体およびその薬理上許容される塩。

2. 一般式

「式側中、R¹ およびR² は同一きたは異なつて水素原子または低級アルキル基を,R³は水素原子または低級アシル基、脂環式アシル基、腐子、脂肪族低級アシル基、脂環アシル基、複素である。)で表わされる化合物とチオ尿素を同して、R¹ および R¹ ないである。)で表わされる化合物とチオ尿素を原発を表える。」で表わされる化合物とチオ尿素を原料を表える。」で表わされる化合物とチオ尿素を表える。」で表わされる化合物とチオ尿素を表える。」で表わされる化合物とチオ尿素を表える。」で表わされる化合物とチオ尿素を表える。」で表わされる化合物とチオ尿素を表える。」で表わされる化合物とチオ尿素を表える。」で表わされる化合物とチオ尿素を表える。」で表わされる化合物とチオ尿素を表える。」で表わされる化合物とチオ尿素を表える。」で表わされる化合物とチオ尿素を表える。」で表わされるである。」で表わされる化合物とチオ尿素を表える。」で表わされる化合物とチオス素を表える。」で表わされる化合物とチオス素を表える。」で表わされる化合物とチオス素を表える。」で表わされるで表える。」で表わされるなどので表える。」で表わされるである。



なことを特徴とする 応させモー般式



$$\begin{array}{c}
R^4 \\
R^5 \\
R^2
\end{array}$$

$$\begin{array}{c}
R^5 \\
CH_2
\end{array}$$

$$\begin{array}{c}
CH_2 - CH - C = Y \\
NH
\end{array}$$

$$\begin{array}{c}
NH
\end{array}$$

〔式(皿)中、Yは酸素原子、またはイミノ基を示し、R¹,R²,R³,R⁴,R⁵ および n は前記と同義を示す。〕で表わされるチアゾリジン誘導体およびその薬理上許容される塩の製造法。

3. 一般式

「式(Ⅲ)中、R¹ およびR² は同一または異なって水素原子または低級アルキル基を, R³は水素原子、脂肪族低級アシル基、脂環式アシル基、置換基を有していてもよい芳香族アシル基、複素環アシル基、置換基を有していてもよい芳香脂肪族アシル基、低級アルコキシカルボニル基

またはアラルキルオキシカルポニル基を, R⁴ および R⁵は同一または異なつて、水素原子、低級アルキル基、または低級アルコキシ基を, n は 1 乃至 3 の整数を, Y は酸素原子、またはイミノ基を示す。〕で表わされる化合物を加水分解することを特徴とする一般式

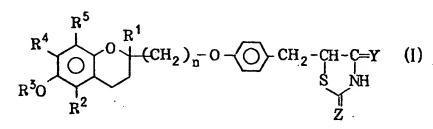
$$R^4$$
 CH_2
 CH_2
 CH_2
 CH_2
 CH_2
 CH_2
 CH_3
 CH_4
 CH_5
 CH_5
 CH_5
 CH_6
 CH_7
 C

〔式例中、R¹,R²,R³,R⁴,R⁵ およびnは前記と同義を示す。)であらわされるチアゾリシン誘導体およびその薬理上許容される塩の製造法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は血中脂質改善作用すなわち血中過酸化脂質低下作用血中トリグリセライド低下作用および血中コレステロール低下作用を有し、かつ極めて低毒性の新規チアゾッン誘導体に関する。さらに詳しくは、本発明は一般式





「式(I)中、R¹ および R² は同一または R³ は R³ に R⁴ に R⁵ に

〔式⑪中、R¹,R²,R³,R⁴,R⁵ および n は、 前記と同義を示し、X はハロゲン原子を、A は シアノ基、カルポキシ基、アルコキシカルポニ ル基、カルベモイル基、または式 - COOM (M は 等価の陽イオンを示す。)で表わされる基を示 す。〕で表わされる化合物とチオ尿素を反応さ せて一般式

$$\begin{array}{c}
\mathbb{R}^{5} & \mathbb{R}^{1} \\
\mathbb{R}^{3} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} \\
\mathbb{R}^{3} & \mathbb{R}^{2}
\end{array}$$

$$\begin{array}{c}
\mathbb{R}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} \\
\mathbb{R}^{2} & \mathbb{C}^{1} \\
\mathbb{R}^{2} & \mathbb{C}^{1} \\
\mathbb{R}^{2} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^$$

〔式(II)中、R¹,R²,R³,R⁴,R⁵, n および Y は前述と同義を示す。〕で表わされるチアゾ リシン誘導体の製造法, ならびに前記一般式伽 で表わされる化合物を加水分解することを特徴 とする一般式

$$R^4$$
 R^5
 R^1
 CH_2
 R^5
 R^1
 CH_2
 R^5
 R^1
 R^2
 R^3
 R^4
 R^5
 R^5
 R^1
 R^5
 $R^$



〔式が中、 R¹, R², R³, R⁴, R⁵ および n は前記と同義を示す。)で表わされるチアソリシン誘導体の製造法に関する。

前記一般式(I) において、R¹ および R² が低級 アルキル基を示す場合、R¹ および R² は同一または異なつてメチル、エチル、n-プロピル、イソプロピル、n-プチル、イソプチル、n-ペンチル、イソペンチルをど直鎖状または分枝鎖状の炭素数 1 乃至 5 のものがあげられる。



ベングイル、3,4 - ジクロベングイル、3,5
- ジー t - プチルー 4 - ヒドロキシベング・ループチルー 4 - ヒドロキシル基、2 - フトイルのような苦疾アシル基、カカルボニルのようなロリジカルボニルのようカルボニルのようロール、3 - アセチルのようロール、3 - アセチルのようロール、3 - アセチルのようロール、カルボニルのような医類などのでは、シャールのようなでは、シャールがある。

R⁴ および R⁵ がアルキル基を示す場合、 R⁴ および R⁵ は同一または異なつてメチル、エチル、 n - プロピル、イソプロピル、 n - プチル、イ ソプチル、 tert - ブチル、 n - ペンチル、イソ ペンチルなど直鎖状または分枝鎖状の炭素数 1 乃至 5 のものがあげられる。

 R^4 および R^5 がアルコキシ基を示す場合、 R^4



および R⁵は同一または異なつてメトキシ、エトキシ、ロープロポキシ、イソプロポキシ、ロープロポキシ、ローフトキシがあげられる。また、隣接する R⁴ および R⁵は一緒になつて形成するメチレンジオキシあるいはエチレンジオキシのような低級アルキレンジオキシ基を示してもよい。

本発明の前記一般式(I)で表わされる目的化合物は、常法に従つて薬理上許容し得る無毒性塩とすることができるが、そのような塩とし切えばナトリウム、カリウムのようなアルカリカムの塩あるいはカルシウムのようなアルカリ土類金属の塩をあげることができる。

従来、チアソリシン誘導体が血中脂質、糖低下作用を有し、かつ低毒性とされていることは、 時開昭 55-22636号および Chem. Pharm. Bull. 30,3580(1982) において公知である。

しかるに本発明者らは前記一般式(I)を有する 誘導体を鋭意研究中、化合物(I)は、Biochem, Biophys. Res. Commun. 95,734-737(1980) に示されるラット肝ミクロソーム脂質の過酸化



以上の試験の結果から本発明のチアゾリシン誘導体(I)は人の高脂血症,糖尿病およびそれらの合併症の治療に有用であることが期待を対してある。投与方法は、たとえば錠剤,カプセルれるが、たとれば錠りのに用いる場合として、非経口的に投与をといて異なるが、例えば高脂血症治療剤として異なるが、例えば高脂血症治療として用いる場合は成人につき通常1日50m~10を経口的または非経口的に、投与することができる。

本発明のチアゾリシン誘導体(I)の具体例としてはたとえば、次表に示すような構造式を有する化合物があげられる。

$$\begin{array}{c}
\mathbb{R}^4 \\
\mathbb{R}^5 \\
\mathbb{R}^5 \\
\mathbb{R}^2
\end{array}$$
 $\begin{array}{c}
\mathbb{R}^1 \\
\mathbb{C} \\
\mathbb{C$

†									
化合物	R ¹	R ²	R ³	R4	R ⁵	n	Y	Z	
1	Ме	Me	Н	Me	Me	1.	0	0	
2	Ме	Me	Н	Me	H	1	0	0	
3	Me	Н	Н	t-Bu	Н	1	0	0	
4	Me	H	Н	Н	H	1	0	0	
. 5	Et	Me	н	Me	Me	1	o	0	
6	H	Me	Н	Me	Me	1	0	0	
7	Me	н	н	Me	Me	1	0	0	
8	Me	н	H	iso-Pr	н	1	O	0	
9	Me	iso-Pr	н	iso-Pr	Н	. 1.	0	0	
10	Me	H	н	n-Pr	н	1	o _.	0	
.11	Me	Me	н	Me	Me	2	o	o	
12	Me	Me	H	Me	Н	2	0	0	

 $\frac{\mathbf{t}}{42^{n-1}}$



化合物	R ¹	R ²	R ³	R ⁴	R ⁵	'n	Y	Z	
13	Me	Н	Н	t-Bu	Н	2	0	0	
14	Me	Н	H	Н	·H	2	0	0	
15	Et	Me	н	Ме	Me	2	0	0	
16	H	Me	Н	Me	Me	2	0	0	
17	Me	iso-Pr	H	iso-Pr	Me	2	0	o	
18	n-Pr	. Н	Н	n-C ₅ H ₁₁	Н	2	0	0	
19	Ме	Ме	Н	MeO	MeO	1	0	0	
20	Н	Me	Н	MeO	MeO	1	0	0	
21	Et	Me	н	MeO	MeO	1	, O	0	
22	Me	Me	н	0- C	H ₂ -0	1	0	0	
23	Me	Me	н	MeO	MeO	2	0	0	
24.	Me	Мe	н	Me	Me	3	0	0	
2.5	н	н	H	t-Bu	Me	3	0	O,	
26	н	Н	н	н	н	1.	0	·O	
27	· Me	Н	H	Me	H	1	0	0	
28	n-Pr	Me	н	Me	Me	1	0	0	
29	iso-Pr	Н	н	t-Bu	H	1	O	O	
30	n-Bu	Me	н	Me	Me	1	0	o	

意味
1.4

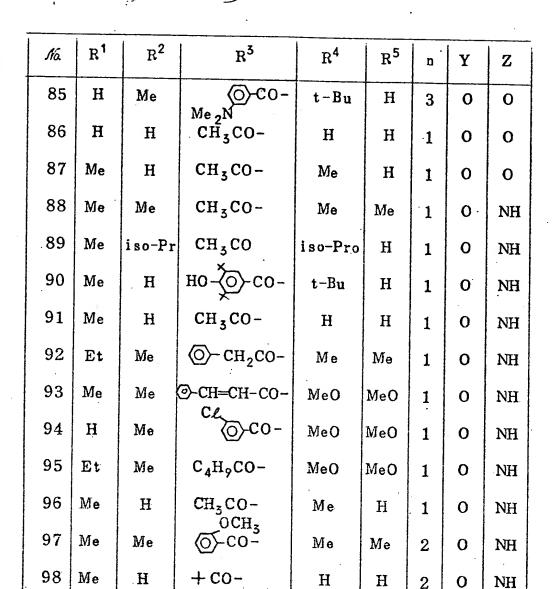
化合物	R ¹	R ²	R ³	R ⁴	R ⁵	n	Y	Z
31	is ò- Bu	Н	Н	iso-Pr	Н	1	0	0
32	n-C ₅ H ₁₁	Me	Н	Ме	Me	1	0	0
33	iso-C ₅ H ₁₁	Me	Н	Ме	Н	1.	0	0
34	Me	Me	Н	Me	Me	1	o	NH
35	Me	iso-Pr	н	iso-Pr	H	1	0.	NH
36	Me	H	H	t-Bu	Н	1	O	NH
37	Ме	H	н	Н	Н	1	0	NH
38	Eŧ	Me	Η,	Me	Me	1	О	NH
39	Me .	Me	H	MeO	MeO	1	О	NH
40	. н	Me	H	MeO	MeO	1	О	NH
41	Et	Me	н	MeO	MeO	1	0	NH
42	Me	н	н	Me	Н	1	0	NH
43	Me	Me	н	Me	Ме	2	0	NH
44	Ме	H	Н	H	н	2	Ó	NH
45	Me	Н	н	t-Bu	Н	2	0	NH
46	Me	Me	н	MeO	MeO	2	o	NH
47	Et	Me	н	MeO	MeO	2	0	NH
48	Н	Ме	H	MeO	MeO	2	0	NH



-			·						
化合物	R ¹	R ²	R ³	R ⁴	R ⁵	n	Y	Z	
49	Ме	Ме	Н	Ме	. Me	3	.0	NH	1
50	Ме	Ме	н	Ме	Me	1	NH	NH	
51	Ме	Me	H	Ме	Н	1	NH	NH	
52	Ме	н	Н	t-Bu	Н	1	NH	NH	
53	Me .	н	H	н	H	1	NH	NH	
54	Н	H	Н	t-Bu	H	1	NH	NH	
55	Ме	Me	Н	MeO	MeO	1	NH	NH	
56	H	Ме	н	MeO	MeO	1	NH	NH	
57	Et	Ме	Н	MeO	MeO	1	NH	NH	
58	Ме	Ме	Н	Ме	Me.	2	NH	NH	
59	Me	Н	н	t-Bu	H	2	NH	NH	
60	Ме	Ħ	н	H	Н	2	NH	NH	
61	Ме	Me	н	M e O	MeO	3	NH	NH	
62	Ме	Ме	н	Ме	Ме	1	0	s	
63	Ме	Me	н	Ме	Ме	1	NH	S	
64	Ме	Me	н	MeO	MeO	1	0	s	
65	Н	Me	н	MeO	MeO	1	NH	s	
66	Me	Ме	CH-CO-	- Me	Ме	1	0	0	
				1		,		,	

變
= 1/

No.	R ¹	R ²	R ³	R ⁴	R ⁵	n	Y	Z	-
67	Ме	Ме	C ₆ H ₅ CO-	Me	Me	1	0	0	t
68	Me	Н	CH ₃ CO-	t÷Bu	Н	1	.0	0	
69	Ме	н	CH ₃ CO-	н	Н	1	0	0	
70	Et	Me	>-co-	Me	Me	1	0	0	
71	Me	Ме	CH ₃ CO-	Me	Me	2	0	0	
72	Ме	Ме	F C 0	Me	Н	2	0	0	
73	Ме	Н	c ₀	t-Bu	H	2	0	0	
74	Ме	Н	C ₆ H ₁₃ CO-	H	Н	2	o	0	
75	Et	Ме	H ₂ N-(O)-CO-	Me	Ме	2	o	O.	
76	н	Ме	CO-	Me	Ме	2	0	0	
77	Ме	iso-Pr	G-co-	iso-Pr	Me	2	o	0	-
78	n-Pr	Н	©⊙-co-	n-C ₅ H ₁₁	Н	2	0	0	
7 9	Ме	Ме	Q co-	MeO	MeO	1	0	0	
80	Н	.Me	CL. CO-	MeO	MeO	1	0	0	
81	Et	Me	n-C ₄ H ₉ CO-	MeO	MeO	1	0	0	
82	Ме	Ме	и⊙-со-	O-CH ₂	- o	1	0	0	
83	Ме	Ме	N⊙-co- o ₂ n-⊙-co- Cl ⊘-co-	MeO	MeO-	2	0	o	
84	Ме	Ме	(C)-C0-	Me	Me	3	0	0	



CH3CH2CO-

EtO-CO-

CĿ-⊚-CH₂CO-

©-СН,СН,СО-

t-Bu

MeO

MeO

MeO

Η

MeO

MeO

MeO

2

2

2

2

0

0

0

0

NH

NH

NH

NH

99

100

101

102

Me

Me

Et

H

H

Мe

Me

Me



No	R ¹	R ²	R 3	R ⁴	R 5	n:	Y	Z
103	Me ·	Me	⊙-сн ₂ о-с-	Ме	Me	3	0	NH
104	Me	Ме	⊘ -co-	Ме	Me	1	NH	NH
105	Ме	Ме	(H)-co-	Ме	н	1	NH	NH
106	Ме	H	CH ₃ CO-	t-Bu	Н	1	NH	NH
107	Ме	Н	CH ₃ CO-	H .	Н	1	NH	NH
108	н	Н	CH ₃ CO-	t-Bu	Н	1	NH	NH
109	Ме	H	CH ₃ CO-	CH ₃	H	1	NH.	NH.
110	Ме	Me	CH ₃ CO-	MeO	MeO	1	NH	NH
111	Н	Ме	CH ₃ CO-	MeO	MeO	1	NH	NH
112	Et	Ме	CH ₃ CO-	M e O	MeO	1	NH	NH
113	Ме	Ме	MeOCO-	Ме	Me	2	NH	NH
114	Ме	н	○co-	t-Bu	н	2	NH	NH
115	Ме	н	нсо-	н	н	2	NH	NH
116	Ме	Ме	CH ₃	MeO	MeO	3	NH	NH
117	Ме	Ме	CH ₃ CO-	Ме	Ме	1	0	s
118	Ме	Ме	CH ₃ CO-	Ме	Me	1	NH	s
119	Ме	Ме	CH ₃ -(O)- CO-	MeO	MeO	1	NH	s
120	Н	Ме	H-co-	MeO	MeO	1	NH	s



さらに、本発明の化合物(1)において、好 適な化合物としては、R¹が低級アルキル、特に メチルであり; R²が水素原子または低級アルキ ル、さらに水素原子またはメチル、イソプロピ ルであり、特にメチルであり; R³が水素原子を たは脂肪族低級アシル、芳香族アシル、さらに 水素原子、アセチル、ペンゾイル、特に水素原 子であり; R⁴が水素原子、低級アルキルまたは 低級アルコキシ、さらにメチル、イソプロピル、 tert - ブチル、メトキシ、さらに望ましくはメ チル、tert -ブチル、梅にメチルであり; R⁵が 水素原子、低級アルキル、低級アルコキシ、さ らに水素原子、メチル、メトキシ、特にメチル であり; nが1であり; Yが酸素原子であり; Zが酸素原子またはイミノ基、特に酸素原子で ある化合物をあげることができる。

本発明のチアゾリジン誘導体(I)は、たと えば次のようにして製造することができる。す なわち、式(I)中、2がイミノ基である化合物 (II)は、一般式(II)



$$\begin{array}{c}
\mathbb{R}^{4} & \stackrel{\mathbb{R}^{5}}{\longrightarrow} & \mathbb{R}^{1} \\
\mathbb{R}^{3} & \stackrel{\mathbb{C}^{3}}{\longrightarrow} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} \\
\mathbb{R}^{3} & & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} \\
\mathbb{R}^{3} & & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} \\
\mathbb{R}^{3} & & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} \\
\mathbb{R}^{3} & & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} \\
\mathbb{R}^{3} & & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} \\
\mathbb{R}^{3} & & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} \\
\mathbb{R}^{3} & & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} \\
\mathbb{R}^{3} & & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} \\
\mathbb{R}^{3} & & \mathbb{C}^{1} \\
\mathbb{R}^{3} & & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} \\
\mathbb{R}^{3} & & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} \\
\mathbb{R}^{3} & & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1} \\
\mathbb{R}^{3} & & \mathbb{C}^{1} \\
\mathbb{R}^{3} & & \mathbb{C}^{1} \\
\mathbb{R}^{3} & \mathbb{C}^{1} \\
\mathbb{R}^{3} & \mathbb{C}^{1} & \mathbb{C}^{1$$

で表わされる化合物とチオ尿素を反応させると とによつて得られる。

上記式中、R¹,R²,R³,R⁵, n および Y は前記のものと同義を示し、A はシアノ基、カルボキシ基、例えばメトキシカルボニル、エト・シカルボニル、ロープロポキシカルボニル、インボニルのようなでアルコキシカルボニル基または式-COOM基(式中、M は例えばナトリウム、カリウム、カルシウム、アルミニウムを属原子またはアンモニウム基等の

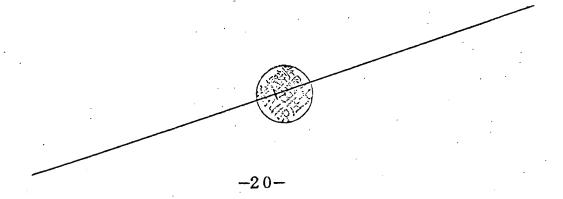
等価の陽イオンを示す。)を表わし、Xは例えば塩素、臭素、沃素のようなヘロゲン原子を表わす。なお、化合物(II)には下記で示されるように、互変異性体が考えられるが、便宜上これらを単に式(II)として表わす。

Yが酸素原子のとき、

$$R^{4}$$
 R^{5}
 R^{1}
 CH_{2}
 $R^{3}O$
 R^{2}
 CH_{2}
 CH_{2}
 CH_{2}
 CH_{2}
 CH_{2}
 CH_{2}
 CH_{2}
 CH_{3}
 CH_{3}
 CH_{3}
 CH_{4}
 CH_{2}
 CH_{3}
 CH_{4}
 CH_{3}
 CH_{4}
 CH_{4}
 CH_{4}
 CH_{5}
 CH_{5}
 CH_{5}
 CH_{6}
 CH_{7}
 CH_{7

$$\mathbb{R}^{4}$$
 \mathbb{R}^{5}
 \mathbb{R}^{1}
 \mathbb{CH}_{2}
 \mathbb{CH}_{2}
 \mathbb{CH}_{2}
 \mathbb{CH}_{2}
 \mathbb{CH}_{2}
 \mathbb{CH}_{2}
 \mathbb{CH}_{2}

Yがイミノ基であるとき、





r_{ic}

$$R^4$$
 R^5
 CH_2
 R^5
 R^1
 CH_2
 R^5
 R^1
 R^3
 R^5
 R^1
 CH_2
 R^5
 R^1
 R^3
 R^4
 R^5
 R^5
 R^1
 R^5
 R^1
 R^3
 R^4
 R^5
 R^5
 R^1
 R^5
 R^1
 R^3
 R^4
 R^5
 R^5
 R^1
 R^4
 R^5
 R^5
 R^1
 R^5
 R^1
 R^3
 R^4
 R^5
 R^5
 R^1
 R^3
 R^4
 R^5
 R^5
 R^1
 R^5
 R^1
 R^3
 R^4
 R^5
 R^5
 R^4
 R^5
 R^5
 R^6
 R

$$R^4$$
 R^5
 R^5
 R^1
 CH_2
 R^5
 CH_2
 CH_2
 R^5
 NH_2

$$\begin{array}{c}
\mathbb{R}^4 \\
\mathbb{R}^5 \\
\mathbb{R}^5 \\
\mathbb{R}^2
\end{array}$$
 $\begin{array}{c}
\mathbb{R}^1 \\
\mathbb{C} \\
\mathbb{N} \\
\mathbb{N$

化合物(Ⅱ)とチオ尿素との反応は通常溶媒中で行なわれる。該溶媒としては、たとえばメタノール・エタノール・プロパノール・プタノール・エチレングリコールモノメチルエーテルなどのアルコール類、テトラヒドロフラン・ジオキサンなどエーテル類、アセトン・ジメチル

スルホキシド,スルホラン,ジメチルホルムアミドなどがあげられる。化合物(II)とチェルは特に限定されないが、化合物(II)に対して当モルよりやや過剰のチュ尿素を使用するのがよい。好ましくは化合物(II)1 モルに対し、1~2 モルである。反応料,反応時間などの反応条件は用いられる原料,溶媒などにより異なるが、通常反応は溶媒の滞点もしくは80万至150℃で、1時間乃至十数時間行なわれる。

式(I)中、YとZが共に酸素原子である本発明 の化合物(N)は、化合物(II)を、単離もし くは単離することなく、加水分解することによ つて製造することができる。



 $\mathbf{k}_{\mathcal{L}}$

$$\begin{array}{c}
\mathbb{R}^{4} \\
\mathbb{R}^{5} \\
\mathbb{R}^{5} \\
\mathbb{R}^{2}
\end{array}$$

$$\begin{array}{c}
\mathbb{R}^{1} \\
\mathbb{C} \\
\mathbb{C} \\
\mathbb{R}^{2}
\end{array}$$

$$\begin{array}{c}
\mathbb{R}^{1} \\
\mathbb{C} \\
\mathbb{R}^{2}
\end{array}$$

$$\begin{array}{c}
\mathbb{R}^{1} \\
\mathbb{C} \\
\mathbb{R}^{2}
\end{array}$$

$$\begin{array}{c}
\mathbb{C} \\
\mathbb{R}^{2}
\end{array}$$

加水分解工程は化合物(III)を適当な溶媒中でなるとはスルホランな鉱酸の存在とのでは、塩酸のなった酸のの存在量は、塩酸ののでは、塩で、塩酸ののでは、10.1~10、水のでは、10.1~10、水のでは、10、1年間は、10、1年間は、10、1年間は、10、1年間に、10、1年間に、10、1年間に、10、1年間に、10、1年間に、10、1年間に、10、1年間に、10、1年間に、10、1年間に、10、1年間に、10、1年間に、10、1年間に、10、1年間に、10、1年間に、10、1年間に、10、1年間に、10、1年間に、10、1年間に、10、1年間に、1年間に、10、

示す(N_H)が、反応条件をえらぶことにより、 アシル基を残すこともできる。

この工程において得られたフェール性水酸基 を有するチアゾリシン類(N_H)は常法により、

ナトリウム、カリウムのようなアルカリ金属,カルシウムのようなアルカリ土類金属,アルミニウムのような三価の金属若しくはアンモニウムのような種々の陽イオンとの塩を形成させることができる。

また(N_H)は、酸ハロゲン化物、酸無水物のようなアシル化剤,または芳香族カルボン酸、脂肪族カルボン酸のような有機酸と,塩酸、硫酸のような鉱酸、パラトルエンスルホン酸のような鉱酸、パラトルエンスルホン酸のような有機酸からなる脱水剤または脱水触媒を変りなるとによつて、目的とするエステル類に変換することができる。反応は通常溶媒中で行な



われる。使用される溶媒としてはエーテル、テ トラヒドロフラン、ジオキサンのようなエーテ ル類、ペンゼン、トルエンのような芳香族炭化 水素類、n-ヘキサン、シクロヘキサン、n-ヘプタンのようを脂肪族炭化水素類、シクロロ メタン、クロロホルムのようなハロゲン化炭化 水素類、アセトン、メチルエチルケトンのよう なケトン類、ジメチルホルムアミド、アセトア・ ミドのようなアミド類、シメチルスルホキサイ ド、スルホランのようなスルホキサイド類、水 などがあげられる。化合物(N_H)とアシル化剤 の割合は特に限定はないが、化合物(N_H)に対 して当モルよりやや過剰のアシル化剤を使用す るのがよい。好ましくは化合物(N_H)1モルに 対し、アシル化剤1~2モルである。反応温度、 反応時間などの反応条件は用いられる原料、溶 媒の種類によつて異なるが、通常0°乃至100 でで、数分乃至十数時間反応させる。

式(I)中、Zが硫黄原子である本発明の化合物は、化合物(II)にジチオカルバミド酸アンモ

ニウムを反応させることによつて製造すること ができる。反応は炭酸ナトリウム、炭酸カリウ ムのようなアルカリ金属炭酸塩の存在下に行な われる。溶媒としてはメタノール、エタノール のような低級アルコール、水、または両者の混 合溶剤があげられる。化合物(Ⅱ)とジチオカ ルバミド酸アンモニウムの割合は特に限定はな いが、化合物(Ⅱ)に対して1~5である。炭 酸塩は通常、化合物(Ⅱ)に対して当モル乃至 当モルよりやや過剰に使用される。反応温度は 通常-10°乃至50℃、反応時間は十数分乃至 十数時間である。該反応条件において処理され たのち、通常、反応はさらに酸性条件にかえて 継続される。使用される酸としては塩酸、硫酸 のような鉱酸があげられる。鉱酸は通常、化合 物(Ⅱ)に対して大過剰が使用される。該反応 においては反応温度は通常50万至100℃、 反応時間は通常1乃至10時間である。

式(I) によつて示されるチアゾリシン誘導 体にないて、クロマン環 2 位の R¹基とチアゾリ



ジン環の5位の水素原子は、それぞれシス位あるいはトランス位にあつてもよく、いずれの立体異性体も本発明の化合物に包含される。さらに、クロマン環の2位およびチアゾリシン環の5位の炭素原子はそれぞれ不斉炭素原子であり、それに逃く光学異性体もまた本発明の化合物に包含される。

以上の反応によつて得られたチアゾリシン誘導体(I)は公知の分離、精製手段、たとえば 濃縮、減圧濃縮、溶媒抽出、晶出再結晶、転溶、 クロマトグラフィー、さらに光学分割法などに よつて単離精製することが可能である。

本発明の前記一般式(I)で表わされる目的化合物を製造する際の原料化合物であるα - ハロゲノカルボン酸類(II)は、例えば以下の反応径路によつて製造することができる。

$$\mathbb{R}^4$$
 \mathbb{R}^5 \mathbb{R}^1 $\mathbb{C}^{\mathrm{H}_2}$ $\mathbb{R}^{\mathrm{H}_2}$ $\mathbb{R}^{\mathrm{H}_2}$

$$R^4$$
 R^5 R^1 CH_2 n NH_2 R^3 R^2 R^2 R^4 R^5 R^4 R^5 R^4 R^5 R^4 R^5 R^4 R^5 R^4 R^5 R^4 R^5

上記式中、 R¹ , R² , R³ , R⁴ , R⁵ , n , X および A は前記したものと同義を示し、 R⁶ は水酸基の保護基を示し、 m は 0 乃至 2 の整数を示す。



第1工程

最初の出発原料、クロマンアルコール類(M)は例えばジャーナル オブ オイル ケミカル ツサイアテイ 51巻,200頁(1974) に記載されているクロマンカルボン酸類(V)を、たとドライド(ソアイウム ピス〔2 - メトキシ〕をオード(ソアイウム ピス〔2 - メトキシ〕をカード(ソアイウム ピス〔2 - メトカ)のようを還元別に対して製造することができ、また、西独特許 3,010,504に示されている塩化アルミニウムの存在下、ハイドロキノン類と式である。

HOCH₂CH₂CMe: CHCH₂OH とを反応させる方法によっても製造することができる。上記還元反応で使用される溶媒としては、たとえば、ジェチルエーテル、テトラヒドロフラン、エチレンクリコールジメチルエーテルのようなエーテル類、ベンゼン、トルエン、キシレンのような芳香族炭化水素、n-ヘキサン、n-ヘプタン、エチルシクロヘキサンのような脂肪族炭化水素、な



どがあげられる。

化合物 (V) と還元剤の割合は特に限定はないが、化合物 (V) に対してやや過剰の還元剤を使用するのが良い。好ましくは、化合物 (V) に対して、1~2 モルである。反応温度,反応時間などの反応条件は用いられる原料、溶媒などによつて異なるが、通常10万至120℃で十数 分乃至十数時間反応を行なう。

第2工程

かくして得られたクロマンアルコール(W)は ニトロフェノキシアルキレンクロマン類(W)に 導かれる。該反応に先立ちフェル性、 変をといる。水酸基 R⁶ としてよば、メトキンなアルコインのでは、 とたば、メトキンなアルコインのでは、 とうこれなどのよい。 アナルをがあずるとがが、アルコインのアル うながある。保護基をよりない。 キルながあが、アルコを向よのでは、 カルキアンがない。 をはいたがあが、アルコをののアルカリなが、 ながあれたが、アルカリなののでは、 ながました。 ながずれるがない。 ながずれるのでは、 ながずれるのでは、 ながずれるのでは、 ながずれたいかりない。 ながないかりない。 ながまれたいかりない。 ながまれたい。 ながずれるのでは、 ながまれたいかりない。 ながまれたいかりましくはアルカリもしくはアルカリもしくない。



多

また、ナトリウムメトキサイド、ナトリウムエ トキサイド、カリウムターシャリープトキサイ ドのようなアルカリ金属のアルコラートなどの 塩基の存在下、クロロメチルメチルエーテルの ようなアルコキシアルキル化剤を用いることに よつて達成される。該反応において、溶媒とし ては、たとえばジエチルエーテル、テトラヒド ロフラン、シオキサンのようなエーテル類、ベ ンゼン、トルエン、キシレンのような芳香族炭 化水素、n-ヘキサン、n-ヘプタンのような 脂肪族炭化水素、シメチルホルムアミド、アセ トアミドのようなアミド類、シメチルスルホキ サイド、スルホランのようなスルホキサイド類 があげられる。化合物 (VI) とアルコキシアルキ ル化剤との割合は特に限定しないが、該アルキ ル化剤に対して、当モルよりどく過剰のVIを用 いるのが有利である。好ましくは化合物 (VI) 1 モルに対して、該アルキル化剤は 0.8 ~1 モル である。反応温度,反応時間などの反応条件は、 用いられる原料、溶媒などにより異なるが、通

常反応は 0 乃至 5 0 ℃で、数分乃至数十分行なわれる。このようにして保護されたクロマンアルコールは、単離することもできるが、単離することをできるが、単離することをくニトロアリール化をおこなうことももできる。ニトロアリール化反応は通常塩基の存できる。ニトロアリール化反応は通常塩基の存在下、4 - ハロゲノニトロベンゼンを用いることによつて達成される。及応温度、及た時向は通常30万至100°℃で数介一数時向である。

第 3 工程



ジオキサンのようなエーテル類、アセトン、 チルエチルケトンのようなケトン類、酢酸、プ ロピオン酸のような有機酸類、ジメチルスルホ キシド、シメチルホルムアミド、水などがあげ られる。好ましい溶媒は水および酢酸のような 有機酸である。酸の添加量は通常化合物(VI)1 モルに対して 0.001~5 モル、好ましくは 0.01 ~ 1 モルである。水の添加量、酢酸の添加量は 化合物 (VI) 1 モルに対し通常大過 剝である。反 応温度、反応時間は原料、溶媒、酸の添加量な どによつて異なるが、通常室温乃至100℃で 数分~十数時間である。化合物(VII)の保護基を アシル基などに変える場合、該アシル化は上記 加水分解によつて脱保護された化合物(Ⅷ。) (各記号は前記と同義: R,は水素原子のみをあ らわす)をさらにアセチルクロリド、ベンゾイ ルクロリドのような酸ハライド類、無水酢酸の ような酸無水物などで示されるアシル化剤で処 理することによつて達成される。該反応は通常 ピリシン、トリエチルアミンのような有機塩基。

i.

の,もしくは水酸化ナトリウム、水酸化カリウ ムのような水酸化アルカリ金属、炭酸ナトリウ ム、炭酸カリウム、炭酸水素ナトリウムのよう なアルカリ金属の炭酸塩のような無機塩基存在 下におこなわれる。該アシル化反応は通常溶媒 中でおこなわれる。該溶媒としてはn-ヘキサ ン、シクロヘキサン、n-ペプタン、リグロイ ン、エチルシクロヘキサンのような脂肪族炭化 水素、ベンゼン、トルエン、キシレンのような 芳香族炭化水素、ピリシン、トリエチルアミン のような有機塩基、アセトン、メチルエチルケ トンなどのケトン類、ジメチルホルムアミド、 ジメチルスルホキサイド、水などがあげられる。 化合物(Ⅷ)とアシル化剤の割合は特に限定は ないが、化合物(VIn)1モルに対して当モルよ りやや過剰量でよく、好ましくは、化合物(VLn) に対して1モル~1.5モルである。有機塩基の 添加量は通常(W_H)1モルに対し、1モル乃至 大過剰、無機塩基を添加する場合には、通常 (W_H) 1 モルに対し、1 \sim 1 0 モルである。反

応温度,反応時間は用いられる原料、溶媒によって異なるが、通常0乃至100℃で数分乃至十数時間である。

本工程において、ニトロ体(VI)はアミノ体(VII) へ還元される。還元方法としては、接触還元あ るいは亜鉛、鉄などの金属と酸(たとえば塩酸、 硫酸などの鉱酸、あるいは酢酸などの有機酸) があげられるが、好ましくは接触還元が用いら れる。接触還元に用いられる触媒はペラジウム - 炭素、ラネーニッケル、酸化白金などがあげ られるが、好ましくは、パラジウムー炭素であ る。水素圧は1気圧乃至100気圧であるが、 1 気圧乃至6 気圧が好ましい。溶媒としては、 メタノール、エタノールのようなアルコール類、 ベンゼン、トルエンのような芳香族炭化水素、 テトラヒドロフラン、のようなエーテル類、酢 酸のような有機酸、水およびこれらのものの混 合物があげられる。 反応温度, 反応時間は用い られる原料、溶媒によつて異なるが、通常室温 乃至50℃で数分乃至十数時間である。



第4工程

かくして得られた2-(4-アミノフエノキ シアルキレン)クロマン類(畑)をジアゾ化し、 ついでメイルバイン アリレイション(Meerwein Arylation)をおこなりことによつて、本発明に おける目的化合物 (I) の原料である、 α - ハロ ゲノカルポン酸類(Ⅱ)の製造が達成される。該 反応は塩酸、プロム水素酸などの存在下、亜硝酸 ソーダなどの亜硝酸塩類で、シアゾ化し、つい で、アクリル酸、アクリル酸メチル、アクリル 酸エチルのようなアクリル酸エステル類、アク リロニトリル、アクリル酸アミドなどのアクリ ル酸誘導体の存在下に、触媒量の塩化第一銅、 酸化第一銅などの第一銅塩類を作用せしめると とによつて開始する。アクリル酸誘導体として はアクリル酸エステル類が好ましく、第一銅塩 類としては酸化第一銅が好ましい。該反応の溶 媒としては、メタノール、エタノールのような アルコール類、アセトン、メチルエチルケトン のようなケトン類、水、およびこれらの混合物

があげられる。アミノ体(畑)とアクリル酸誘導体類の割合は、化合物(畑)1モルに対してなり、は 5 マリル酸誘導体類1~15モル、好ましり塩類に対し、第一銅っとの割合は化合物(畑)と、第一銅っとの割合は化合物(畑)1モルに対し、第一の3~0.3~0.3~0.3~0.1~1モルであり、好ましくは 0.03~0.3~6 及応温度、反応温度、 反応温度、 反応温度、 反応温度、 反応温度、 反応温度、 反応温度、 るが、 温くは、 海洋、 溶媒などにより異なるが、 通常 まる 原料、 溶媒などにより異なるが、 通常 まる 原料、 溶媒などにより異なるが、 通常 まる のである。で十数分乃至十数時間、 好まる り 70至60で30分乃至2時間である。

かくして得られたクロマン環を有するα-ハロゲノカルボン酸類(II)は所望に応応にて相互に各種の加水分解成績体,エステル交換成からないは、カリウム、カリウム、カリウム、カルミニウムをどの金属塩類へ、あるいは遊離のフェン・シールをといったは遊離のカルボン酸類からまる。体、アミド体などへ変換することができる。

とりわけ、α-ハロゲノカルボン酸類(II)を 所望の,各種の加水分解成績体に導く場合、該



成績体の製造は例えば以下のごとく達成される。 R³が水素原子であり、Aがカルポキシ基である 化合物は、R³が例えばアシル基、Aがアルコキシ カルポニル基である化合物(11)を、炭酸ナトリウム、 炭酸カリウムのようなアルカリ金属炭酸塩、水酸化 ナトリウム、水酸化カリウムのような水酸化アル カリ金属塩基、などの無機塩基、あるいはナトリ ウムメトキサイド、ナトリウムエトキサイド、カリウ ムターシャリープトキサイドのようなアルカリ金属 のアルコラートなどの塩基の存在下、加水分解反 応を行なうことによつて得ることができる。溶 媒としては、たとえばメタノール、エタノールの ような低級アルコール類、テトラヒドロフラン、 ジオキサンのようなエーテル類、水およびこれら の混合溶剤があげられる。該化合物(II)と該無機 塩基、あるいは該塩基との割合は、該化合物(II) 1モルに対して、1乃至5、好ましくは2乃至3 である。 反応温度, 反応時間などの反応条件は、 用いられる原料、塩基、溶媒などにより異なるが、 通常反応温度は-10乃至30℃、好ましくは



0 乃至1 0 C、反応時間は数分乃至数十時間である。

R³が水素原子であり、Aがアルコキシカルポ ニル基である化合物は、R³が例えばアシル基、 A がアルコキシカルボニル基である化合物 (II) をナトリウムメトキサイド、ナトリウムエトキ サイド、カリウムターシャリーブトキサイドの ようなアルカリ金属のアルコラートなどの塩基 の存在下、加溶媒分解反応を行なりことによつ て得ることができる。溶媒としては、メタノー ル、エタノール、プロパノール、イソプロパノ ール、tープチルアルコールのようなアルコー ル類、テトラヒドロフラン、ジオキサンのよう なエーテル類およびこれらの混合溶剤をあげる ことができる。特に原料の基Aに示すアルコキ シカルポニル基を、そのまま保有することが所 望される場合には、該アルコキシ基に対応する アルカリ金属のアルコラートを選択することお よび溶媒として、該アルコキシ基に対応するア ルコールを選択することが望ましい。さらに、

R³がアシル基であり、Aがカルボキシ基である化合物は、R³が例えばアシル基、Aがアルコキシカルボニル基である化合物(II)を、炭酸ナトリウム、炭酸カリウムのようなアルカリ金属炭酸は、水酸化ナトリウム、水酸化カリウムが、などの無機塩素、あるいはナトリウムメトキサイド、カリウムターシャリーナをとったのようなアルカリ金属のアルコラートなどのようなアルカリ金属のアルコラートなどのようなアルカリ金属のアルコラートなどのようなアルカリ金属のアルコラートなどのようなアルカリ金属のアルコラートなどのようなアルカリ金属のアルコラートなどのようなアルカリカルがアルカリカルボールを高のアルコラムをであります。

式(II)によつて示されるα - ハロゲノカルボン酸類においてクロマン環 2 位の R¹基と置換基 A の α 位の水素原子は、それぞれシス位あるいはトランス位にあつてもよく、いずれの立体異性体も化合物(II)に包含される。さらにクロマン環 2 位および置換基 A の α 位の炭素原子はそれぞれ不斉炭素原子であり、それに基く光学異

性体もまた化合物(11)に包含される。

なお、このようにして得られるα - ハロゲノカルボン酸(II)もまた、血中過酸化脂質低下作用を有するのみならず、血中トリグリセライドおよびコレステロール低下作用を有することが認められ、従つて高脂血症治療剤として有用である。

上記の薬理活性を示す式(II)で表わされる好適な化合物として、次表に示すような化合物を あげることができる。

化合物	R ¹	R ²	R ³	. R ⁴	R ⁵	a	х	A
1	Me	Me	Н	Me	Me	1	CŁ	-соон
2	Me	Me	CH ₃ CO-	Ме	Me	1	Ce	-соон
3	Me	Me	Н	Me	Ме	1	Ce	-COOEt
4	Me	Me	CH ₃ CO-	Me	Ме	1	CL	-COOEt
5	Me	Me	⊘-co-	Me	Me	1	CŁ	COOEt
1	,	1		1				

(1)	
13.	

		i			·	,		
Na	R ¹	R ²	R ³	R ⁴	R ⁵	n	х	A
6	Me	H ·	Н	t-Bu	Н	1	Ce	-соон
7	Me	Н	CH ₃ CO-	t-Bu	н	1	ce	-COOEt
8	Me	Н	н	н	н	1	ce	-соон
9	Me	H	CH ₃ CO-	Н	Н	1	ce	-COOEt
10	Me	Me	Н	MeO	MeO	1	ce	-СООН
11	н	Me	CH ₃ CO-	MeO	MeO	2	CE	-соон
12	Et	. Me	Н	MeO	MeO	1	Br	-COOEt
13	Ме	Н	Н	Me	н	1	ce	-СООН
14	Me	Н	CH ₃ CO-	Ме	н	1	ce	-COOEt
15	Et	iso-Pr	Н	iso-Pr	H	2	CŁ	-COONH ₄
16	Me	iso-Pr	но-Ф-со-	iso-Pr	H.	1	CŁ	-СООН
17	n-Pr	i so-C ₅ H ₁₁	CH ₃ -(O)-CO-		Et	3	CŁ	-COONa
18	iso-Pr	n-Bu	H-co -	n-Bu	n-Pr	2	CL	-соок
19	n–Bu	Ме	CO+	iso-C ₅ H ₁₁	Ме	1	CL	-COOAL13
20	i so-C ₅ H ₁₁	Me	⊙-ch ₂ co ∸	Me	Н	2	Ce	-CONH ₂

以下に実施例、参考例および試験例をあげて本発明をさらに具体的に説明する。 実施例 1.

エチル 3-[4-(6-7セトキシ-2.5.7.8-テトラメチルクロマン-2-メトキシ)フエニル]-2-クロロプロピオネート 9.6 タチオ尿素 1.8 分、スル ホラン11mlの混合物を窒素気流下115-120Cで 80分反応する。その後、反応混合物に酢酸90元、 ~90℃でさらに12時間加熱する。反応混合物に 炭酸水素ナトリウム279を加え、炭酸ガスの発生 が終了したのち溶媒を留去する。粗製物にペンゼ ンと酢酸エチルの10:1(V/V)混合溶媒を加え、飽 和炭酸水素ナトリウム水溶液:水(1:1,V/V)で洗 う。生成した白色粉末を沪取、さらに水洗し、アセ トンから再結晶をおこなつて、5-〔4-〔6-ヒ ドロキシー2,5,7,8-テトラメチルクロマン-2-メ トキシ)ベンジル]-2-イミノチアゾリジン-4 - オンを得た。融点: 205-207 ℃ NMR $\mathcal{A} \sim \mathcal{O} + \mathcal{N}$ (δ ppm , $d_6 - dmf + D_2O$):

1.37(3H,s)、約2(2H,m)、2.02(3H,

s)、2.14(6H,s)、(23-3.1溶媒吸収,)

3.42 (1 H, dd, J=15 Hz \$ L U 4.5 Hz),

 $4.60 (1 H, dd, J = 9 \implies L U 4.5 Hz), 6.93$

(2 H, d, J=9 Hz), 7.23(2 H, d, J=9 Hz).

前記白色粉末を除去して得られた有機層を水 洗ついで、硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒のの まをおこなう。得られた粗成物をシリカゲルカ ラムクロマトグラフィーに付し、ベンセン:酢 酸エチル(10:1 V/V)で溶出しで溶出で ペンゼン:酢酸エチル(10:1.4)で溶出でる 部分から、5- [4-(6-ヒドロキシー2,5, 7,8-テトラメチルクロマン-2-メトキシ) ベンジル〕チアゾリジン-2,4-ジオンを得た。 融点:184-186 で

NMR スペクトル (δ ppm , 重アセトン):
1.39(3H,s)、約2(2H,m)、2.02(3H,s)、2.09(3H,s)、2.13(3H,s)、2.63
(2H,br.t,J=6Hz)、3.07(1H,dd,J=
15Hz および 9Hz)、3.41(1H,dd,J=15Hz

および 4.5 Hz)、3.9 7 (2 H, AB型, J=9 Hz)、4.70 (1 H, dd, J=9 Hz および 4.5 Hz)、6.9 0 (2 H, d, J=9 Hz)、7.2 1 (2 H, d, J=9 Hz)。 実施例 2.

5 - 〔4 - 〔6 - ヒドロキシ - 2,5,7,8 - テトラメチルクロマン - 2 - メトキシ)ベンジル〕 - 2 - イミノチアゾリジン - 4 - オン3.1 分を酢酸 4 5 ml、 濃塩酸 1 5 ml および水 8 ml の混合物に加え、 85~90 ℃で1 2 時間反応し、 実施例1 と同様に処理および精製をおこなつて、 5 - 〔4 - 〔6 - ヒドロキシ - 2,5,7,8 - テトラメチルクロマン - 2 - メトキシ)ベンジル〕チアゾリジン - 2,4 - ジオンを得た。融点およびNMR スペクトルは実施例1におけるそれと一致した。

実施例3.

5-[4-(6-ヒドロキシ-2,5,7,8-テトラメチルクロマン-2-メトキシ)ベンジルチアゾリシン-2,4-ジオン 0.725 g をベンゼン4 ml にとかし、乾燥ピリシン400 mgを加.



え、窒素気流下 5 - 1 0 ℃で無水酢酸 0.2 g を滴下し、室温で 2 日間反応すると白色結晶が析出する。析出結晶を沪取し、ベンゼンで洗浄し、90℃で 3 0 分真空中乾燥して、5 - 〔4 - (6 - アセトキシー 2,5,7,8 - テトラメチルクロマン-2 - メトキシ)ベンジルチアゾリン - 2,4 - ジオンのベンゼン1付加物を得た。該物質は 9 8 - 1 0 0 ℃で融解し、ついで固化、176-178℃で再び融解する。

NMR スペクトル (ð ppm , CDCL₃) : 1.42 (3H, s)、約2 (2H, m)、1.98 (3H, s)、2.03 (3H, s)、2.09 (3H, s)、2.31 (3H, s)、2.63 (2H, br.t, J=6Hz)、3.03 (1H, dd, J=15Hz および 9Hz)、3.42 (1H, dd, J=15Hz および 4.5Hz)、3.84 および 3.98 (2H, AB 型, J=9Hz)、4.45 (1H, dd, J=9Hz まな 4.5Hz)、6.87 (2H, d, J=9Hz)、7.15 (2H, d, J=9Hz)、7.38 (6H, s)、8~8.5 (1H, br. s)。

分析值: C; 68.54, H; 6.13, N; 2.51, S;

5.87%。C₂₆H₂₉NO₆S·C₆H₆ としての計算値: C:68.45, H:6.28, N:2.50, S:5.70%。

該ペンセン1付加物730%をアセトン5 ml にとかし、溶媒を留去したのち、水を入れて固化させ、得られた無定型白色粉末をデシケーター中五酸化燐の存在下に真空乾燥して、5-[4-(6-アセトキシー2,5,7,8-テトラメチルクロマン-2-メトキシ)ベンジルチアゾリジン-2,4-ジオンを得た。融点90-92℃分析値: C;64.34,H;6.15,N;2.84,S;6.55%。

C₂₆H₂₉NO₆S としての計算値: C;64.60,H; 6.06,N;2.90,S;6.62%。

参考例 1.

6-ヒドロキシー 2,5,7,8-テトラメチルクロマン-2-メタノール 1 6.1 分を乾燥シメチルホルムアミド 7 0 ml にとかし、これに、窒素気流下、かきまぜながら、5-10で50 %油性水素化ナトリウム 3.0 分(シクロヘキサンで3回洗う)を少しずつ加える。室温で1時間反応させたのち、3~5°Cに氷冷し、クロルメチ



ルエーテル 5.5 g を乾燥ペンゼン40 ml にとかして滴下する。滴下終了後室温で1時間反応させる。反応混合物を氷水に注ぎ、シクロヘキサンで抽出する。抽出液を5 g 水酸化ナトリック水溶液で4回洗い、ついで水洗、乾燥し、メトリックロネイーを減圧留去すると油状の6 - メトキシー2.5,7.8 - テトラメチルクロラフィーによる Rf 値:0.45[シリカゲル;展開溶剤・ベンゼン:酢酸エチル=4:1]

参考例 2.

反応容器に50 多油性水素化ナトリウム 6.0 を入れ、シクロヘキサンで洗つたのち、乾燥 ジメチルスルホキシド100 ml、ついで6-メ トキシメトキシ-2,5,7,8-テトラメチルクロ



2 - メタノール 19.0 タを乾燥ペンゼン 20 元 に と か し て 加 え 、 窒 素 気 流 下 で 6 0 で で 20分反応する。水冷下30℃でp-クロロニ トロペンセンを少量ずつ加え、ついて60℃で 1時間反応を継続する。反応混合物を氷-水中 に注ぎ、酢酸エチルで扫出し、抽出液を水洗、 硫酸ナトリウムで乾燥後、溶媒を留去すると赤 褐色の粗製油状物が得られた。これをシリカゲ ルカラムクロマトグラフィーに付し、ベンゼン ~ シ ク ロ へ キ サ ン (1 : 1 , V/V) で 溶 出 し 、 ついでベンゼンで溶出される部分から淡黄色油 状の 6 - メトキシメトキシ - 2 - (4 - ニトロ フエノキシメチル) - 2,5,7,8 - テトラメチル クロマンを得た。薄層クロマトグラフィーによ る R, 値: 0.1 2 [シリカゲル; 展 開 溶 剤: ン)。

NMR スペクトル (δ ppm , CDCL₃): 1.41(3 H,s)、約2(2H,m)、2.05(3H,s)、2.14 (3H,s)、2.18(3H,s)、2.6(2H,br.t, J=9Hz)、3.60(3H,s)、3.95 および 4.09



(2H,AB型,J=9Hz)、4.86(2H,s)、6.96(2H,d,J=9Hz)、8.19(2H,d,J=9Hz)。

参考例 3.

6 - メトキシメトキシ-2 - (4 - ニトロフエノキシメテル) - 2,5,7,8 - テトラメチルクロマン32.8 タを10 %硫酸水溶液5.3 タを含む酢酸300 mlにとかし、60℃で10分加熱する。冷後、反応混合物を炭酸水素ナトリウム420 タと氷1 kg中に注ぎ、酢酸エチルで抽出する。抽出液を水洗、ついで硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を留去して、淡黄色粉末状の6-ヒドロキシ-2-(4-ニトロフエノキシメチル) - 2,5,7,8 - テトラメチルクロマンを得た。融点:114-116℃

NMR スペクトル (ð ppm , CDCL₃): 1.41 (3H, s)、約2 (2H.m)、2.06 (3H, s)、2.10 (3H, s)、2.15 (3H, s)、2.6 (2H, br.t, J=6 Hz)、4.05 (2H, AB型, J=9 Hz)、4.25 (1H, br.s)、6.96 (2H, d, J=9 Hz)、8.16



(2 H, d, J = 9 Hz)

参考例 4.

NMR スペクトル (δ ppm , CDCL₃): 1.41(3H,s)、約2(2H,m)、1.98(3H,s)、2.02
(3H,s)、2.05(3H,s)、2.31(3H,s)、
2.6(2H,br.t,J=6Hz)、3.98および4.10

(2H,AB型,J=9Hz)、6.97(2H,d,J=9Hz)、8.20(2H,d,J=9Hz)。 参考例 5.

6 - アセトキシ - 2 - (4 - ニトロフエノキ シメチル) - 2,5,7,8 - テトラメチルクロマン 2 4.3 タをメタノール2 0 0 nl とベンゼン2 0 mlの混合溶媒にとかし、10%パラジウム-炭 素 7 9 の存在下、パールの水添装置を用い、水 素圧45-55ポンド平方インチで3時間反応す る。反応混合物よりパラシウム - 炭素を沪去し、 ついでペラジウム - 炭素をアセトン600 ml と 農塩酸 6 0 mlの混合溶媒で洗浄する。沪液と洗 浄液をあわせ、炭酸水素ナトリウムで中和後、 溶媒を留去し、得られた粗結晶を酢酸エチルに 溶かす。酢酸エチル溶液を水洗ついで、硫酸ナ トリウムで乾燥し、酢酸エチルを留去し、得ら れた組製物をベンゼン:シクロヘキサン(1: 1)で洗浄して、6-アセトキシ-2-(4-アミノフエノキシメチル) - 2,5,7,8 - テトラ メチルクロマンを得た。融点:138-140℃



NMR スペクトル (δ ppm , CDCL₃): 1.42(3H, s)、約2(2H, m)、2.00(3H, s)、2.04
(3H, s)、2.10(3H, s)、2.31(3H, s)、
2.6(2H, br. t, J=6Hz)、3.37(2H, br. s)、
3.80 および 3.95(2H, AB型, J=9Hz)、
6.62(2H, d, J=9Hz)、6.78(2H, d, J=9Hz)。

参考例 6.



NMR スペクトル (ð ppm , CDCL₅) : 1.23 (3H, t , J=7.5 Hz)、1.42 (3H, s)、約2 (2H, m)、1.98 (3H, s)、2.04 (3H, s)、2.09 (3H, s)、2.31 (3H, s)、2.6 (2H, br. t, J=6 Hz)、3.05 (1H, dd, J=15 Hz および7.5 Hz)、3.31 (1H, dd, J=15 Hz および7.5 Hz)、3.83 および3.99 (2H, AB型, J=9 Hz)、4.18 (2H, q, J=7.5 Hz)、4.38 (1H, t, J=7.5 Hz)、6.85 (2H, d, J=9 Hz)、7.14



 $(2 H, d, J = 9 Hz)_{o}$

参考例 7.

3 - [4 - (6 - 7 + 1 + 2 - 2.5,エチル 7,8 - テトラメチルクロマン - 2 - メトキシ) フエニル〕- 2 - クロロプロピオネート 0.169 を 9 9.5 多エタノール 1.5 旭とテトラヒドロブ ラン 0.2 fflの混合溶媒にとかし、窒素気流下、 0 乃至 4 ℃で 9.55 多水酸化ナトリウム水溶液 2 6 5 号を滴下する。 滴下後さらに 0 乃至 5 ℃ で20時間反応したのち、氷冷下に10%塩酸 水溶液 0.689を加えて中和し、減圧下に溶媒 で留去する。析出した淡赤色油をクロロホルム で析出し、クロロホルム析出液を水洗、ついで 硫酸ナトリウムで乾燥する。クロロホルムを減 圧留去して得られる反応混合物をシリカゲルカ ラムクロマトグラフィーに付し、ベンゼン: 9 9.5 ガエタノール (20:1, V/V) で溶出 される部分より、3-[4-(6-アセトキシ - 2,5,7,8 - テトラメチルクロマン - 2 - メト キシ)フエニル]-2-クロロプロピオン酸を



得た。薄層クロマトグラフィーによるR_f.値:

0.6 (テイリング) [シリカゲル;展開溶媒;
ベンゼン: 9 9.5 多エタノール=4:1]

NMR スペクトル(δ ppm, CDCL₃): 1.42(3H,

8)、約2(2H,m)、1.98(3H,s)、2.03
(3H,s)、2.09(3H,s)、2.32(3H,s)、
2.6(2H,br.t,J=6Hz)、3.2(2H,m)、
3.85 および4.00(2H,AB型,J=9Hz)、
4.4(1H,m)、6.86(2H,d,J=9Hz)、
7.15(2H,d,J=9Hz)、約7(1H,br.s)。
参考例 8.



NMR スペクトル (ð ppm , CDCL₃): 1.40(3 H, s)、約2(2 H, m)、2.10(6 H, s)、2.15
(3 H, s)、2.6(2 H, br. t, J=6 Hz)、3.05
(1 H, dd, J=15 Hz および7.5 Hz)、3.30
(1 H, dd, J=15 Hz および7.5 Hz)、3.83 および3.98(2 H, AB型, J=9 Hz)、4.40(1 H,

t, J=7.5 Hz)、約6(2H, br.s)、6.85(2H, d, J=9Hz)。 6考例 9.

3 - [4 - (6 - アセトキシ - 2,5, 7.8 - テトラメチルクロマン - 2 - メトキシ) フェニル〕 - 2 - クロロプロピオネート 0.48 8 を乾燥エタノール 3 ml と乾燥テトラヒドロフ ラン2mlの混合溶媒にとかし、窒素気流下、 10-13℃でナトリウムエトキシドのエタノー ル溶液(ナトリウム 4 9.0 gを乾燥エタノール 2 ml にとかした)を滴下する。滴下終了後さらに 0 乃至 5 ℃ で 2 1 時間反応したのち、氷冷下に、 **濃塩酸 0.22 9を9 9.5 ダエタノールにとかし** て滴下した。減圧下に溶媒を留去し、析出した 淡赤色油をクロロホルムで抽出し、抽出液を水 洗ついで硫酸ナトリウムで乾燥する。クロロホ ルムを減圧留去して得られる粗生成物をシリカ ゲルカラムクロマトグラフィーに付し、ベンゼ ンで溶出される部分より、エチル 3 - [4 -(6-ヒドロキシ-2,5,7,8-テトラメチルク

ロマン・2・メトキシ)フェニル〕・2・クロロプロピオネートを得た。薄層クロマトグラフィーによる Rf値:0.60〔シリカゲル; 展開溶剤; ベンゼン: 酢酸エテル=10:1〕。

NMR スペクトル(δ ppm, CDCℓ3):1.23(3H, t, J=7.5 Hz)、1.40(3H, s)、約2(2H, m)、2.10(6H, s)、2.15(3H, s)、2.6(2H, br.t, J=6 Hz)、3.05(1H, dd, J=15 Hz および7.5 Hz)、3.30(1H, dd, J=15 Hz および7.5 Hz)、3.30(1H, dd, J=15 Hz および7.5 Hz)、4.16(2H, q, J=7.5 Hz)、4.18(1H, s)、4.36(1H, t, J=7.5 Hz)、6.85(2H, d, J=9 Hz)、7.13(2H, d, J=9 Hz)。

試験例1. 血中脂質改善作用

I. 試験方法

雄性マウス8週令を用い、18時間の絶食後 アロキサン75号/kg を尾静脈から注入した。 薬物はアロキサン投与30分前、24時間後、 30時間後に各々100号/kgを3回経口投与した。 採血はアロキサン投与48時間後に頸部切断に



て行なつた。採血量は100μℓ または200μℓ である。それを生理食塩液にて10倍または 20倍に希釈して、遠心分離(3000 rpm, 10分)し、脂質量を測定した。

過酸化脂質は八木法 [K. Yagi: Biochem.

Med, 15, 212-216(1976)] に準じ、T
BA(チオベルビツール酸)反応物質として測定した。コレステロールとトリグリセライドの砂定は酵素法にて行なつた。コレステロールはデタミナー®TC(協和メデイツクス)キットを、トリグリセライドはトリグリセライド測定試薬(GPO-p-クロルフエノール発色法)(和光純薬)キットを使用した。

Ⅱ. 試験結果

表 1 アロキサン誘発高脂血症マウスに およぼす作用

薬 物	動物数		トリグリセライド (mg / dl)	コレステロール (mg/dl)
対照	10	36.8 ± 6.9	6 3 6 ± 1 2 8	81.3±4.7
化合物A	10	1 6.8 ± 1.5*	270± 33*	5 9.6 ± 1.4**
比較化合物	10	2 9.9 ± 5.2	586±127	7 2.5 ± 5.6

*p < 0.02, **p < 0.01

化合物 A: 5-[4-(6-ヒドロキシ-2,5,7,8-テトラメチルクロマン-2-メトキシ) ベンジル]チアゾリシン-2,4-ジオン 比較化合物:5-[4-(1-メチルシクロヘ キシルメトキシ)ベンジル]チアゾリシン-2,4-ジオン

表1で示されるように本発明の化合物 A は過酸化脂質、トリグリセライドおよびコレステロールのいずれをも有意に抑制したが、比較化合物は作用を示さなかつた。

(4150抑制)



特許出願人 三 共 株 式 会 社 代理人 弁理士 樫 出 庄 治

手続補正書(自発)

昭和 59 年 5 月 22 日

特許庁長官 若 杉 和 夫 殿

1. 事件の表示

昭和58 年特許顯第 158375 号

- 2. 発明の名称 チアゾリジン誘導体およびその製造法
 - 3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人 住所 〒103 東京都中央区日本橋本町3丁目1番地の6 名称 (185) 三共株式会社 代表者 取締役社長 河村喜典

4. 代 理 人

居所 〒140 東京都品川区広町1丁目2番58号 三共株式会社内 電話 492-3131

弁理士 (6007) 樫 出 庄 氏名

5. 補正により増加する発明の数 なし

- 6. 補正の対象 明細書の発明の詳細な説明の欄
- 7. 補正の内容 別紙の通り





- 1. 明細書第6頁6乃至7行目の 「チオ尿素を反応させて一般式」を 「チオ尿素を反応させることを特徴とする一般 式」と訂正する。
- 2 同第12頁14行目の化合物 M25の欄の「|t-Bu|Me|」を「|t-Bu|H|」と訂正する。
- 3 同第 12 頁最下行の化合物 % 30 の欄の「|n-Bu|Me|」を「|iso-Bu|Me|」と訂正する。
- 4. 同第 13 頁 11 行目の化合物 16 40 の欄の 「|Me0|Me0|1|」を 「|Me|Me|1|」と訂正する。
- 5. 同第 15 頁 6 行目の化合物 16 71 の欄の 「|Me|Me|CH₃CO-|Me|Me|2|」を 「|Me|Me|n-C₅H₇CO-|Me|Me|1|」と訂正する。
- 6. 同第 15 頁 9 行目の化合物 16 74 の欄の「Me | H | C₆H₁₃CO-| 」を「Me | H | n-C₆H₁₃CO-| 」と訂正する。
- 7. 同第 15 頁 14 行目の化合物 16 79 の欄の

「|MeO|MeO|1|」を 「|Me|Me|1|」と訂正する。

8. 同第 16 頁 12 行目の化合物 16 95 の欄の

[| Et | Me | C₄H₉CO-|] &

「|Et|Me|n-C4H,CO-|」と訂正する。

- 同第21頁最下行の
 「などエーテル類、」を
 「などのエーテル類、」と訂正する。
- 10. 同第23頁4乃至6行目の

「適当な溶媒中(たとえばスルホランなど)水、 酢酸のような有機酸および」を

「適当な溶媒中(たとえばスルホラン,メタノール,エタノール,エチレングリコールモノメチルエーテルなど)水、酢酸のような有機酸あるいは」と訂正する。

- 11. 同第 24 頁 3 行目の 「フェール性水酸基」を 「フェノール性水酸基」と訂正する。
- 12. 同第 29 頁 7 行目の 「ピス [2 メトキン] 」を

「ビス〔2-メトキシエトキシ〕と訂正する。

13. 同第 2.9 頁 11 乃至 12 行目の

「式 HOCH2CH2CMe: CHCH2OH を有する化合物」を

「一般式 HO(CH₂)_n-C=CH-CH₂OH (K)

(式中、 R¹ および n は前記したものと同意義 を示す。)、

例えば式 HOCH2CH2C=CHCH2OH

を有する化合物」と訂正する。

14 同第 30 頁 11 行目の

「フェノキシアルキレンクロマン類」を

「フェノキシアルキルクロマン類」と訂正する。

15. 同第 30 頁 13 行目の

「防護することが好ましい。水酸基の防護基R⁶」を

「保護することが好ましい。水酸基の保護基 R⁶」と訂正する。

16. 同第 30 頁 15 乃至 16 行目の

「アルコキシアルキル基が」を

「アルコキシアルキル若しくはペンジルのよう

なアラルキル基が」と訂正する。

17. 同第 31 頁 5 行目の

「アルコキシアルキル化剤を用いる」を 「アルコキシアルキル化剤若しくはペンジルク ロリドのようなアラルキル化剤を用いる」と訂 正する。

- 18. 同第 31 頁 11 乃至 12 行目の 「アセトアミドのようなアミド類」を 「ジメチルアセトアミドのようなアミド類」と 訂正する。
- 19. 同第 31 頁下から 5 行目の 「ごく過剰の VI を 」を 「や ム 過剰の VI を 」と訂正する。
- 20. 同第 33 頁下から 6 行目の 「R₂ は水素原子」を 「R⁵ は水素原子」と訂正する。
- 21. 同第 34 頁 7 行目の 「n - ペプタン、」を 「n - ヘプタン、」と訂正する。

22. 同第36頁3行目の



「アルキレン)クロマン類」を 「アルキル)クロマン類」と訂正する。

23. 同第 44 頁最下行の

「do-dmf」を

「d7-dmf」と訂正する。

24 同第 46 頁下から 3 行目、第 47 頁 6 行目およ び第 48 頁 8 行目の

「-2-メトキシ)ベンジル」を

「-2-メトキシ)ペンジル]」と訂正する。

25. 同第 48 頁最下行乃至第 49 頁 1 行目の

「クロルメチルエーテル」を

「クロルメチル メチルエーテル」と訂正する。

26. 同第 54 頁 14 行目の

「アクリル酸エチレン」を

「アクリル酸エチル」と訂正する。

27. 同第 56 頁 12 乃至 13 行目の

「で留去する。析出した淡赤色油をクロロホルムで析出し、クロロホルム析出液を水洗、」を「を留去する。遊離した淡赤色油をクロロホルムで抽出し、クロロホルム抽出液を水洗、」と



訂正する。

28. 同第 58 頁 2 行目および第 59 頁下から 7 行目 の

「析出した」を

「遊離した」と訂正する。

29. 同第 48 頁 12 行目の「実施例 3 の記載」の後 に下記の語句を挿入する。

C+	原料化合物(II)
実	(A:COOEt;X:CL) いペクトル(δppm ,
施例	n R ¹ R ² R ³ R ⁴ R ⁵ ン数,型,[J=Hz])(solvent) 反応条件
4	1 H Me Ac Me Me H, s), 1.93 (3 H, s), 2.02 (II) 490mg, TU100mg, S2ml s), 1.63-2.17 (2 H分, nd), H, s), 2.57 - 3.97 (4 H分, nd) 110-120℃, △5 hr (3 H, nd), 4.53 (1 H, dd,), 6.93 (2 H, d, [9]), 7.19 (2 [9]), 8.5 - 9.0 (in CDCl3+) 1.s,D)
5	1 Me H Ac Me H H, s), 1.65 ~ 2.4 (2 H, m), H, s), 2.28 (3 H, s), 2.73 (II) 1.5 \$, TU,300 mg, S2 mℓ br.t, [6]), 30 ~ 3.6 (2 H, m), H, AB, [9]), 4.50 (1 H, dd, [9]), 6.70 (1 H, s), 6.73 (1 H, s) H, d, [9]), 7.15 (2 H, d, 7~9.0 (1 H, br.s, D) (in CDCℓ ₅)
	H, s), 17-22(2H, m), 203(3 227(3H, s), 26-30(3H分, nd) H分, br.s, D), 342(1H, dd, [15 4.02(2H, s), 4.53(1H, dd, [9 6.65(1H, s), 6.79(1H, s), , d, [9]), 7.21(2H, d, [9]), 1H, br.s, D) (in d7-dmf)
6	2 Me H Ac t-Bu H , s), 131 (3 H, s), 182 (2 H,]), 2.03 (2 H, br.t, [7]), 2.25), 2.68 (2 H, t, [7]), 287 (1 H, 29]), 330 (1 H, dd, [14 \(\) 4 \(\))) 110-120°C, \(\Delta \) 4.5 hr , t, [7]), 451 (1 H, dd, [9 \(\) 4]) , s), 6.75 (1 H, s), 6.87 (2 H, 7.15 (2 H, d, [9]), 8.67 (1 H, 3), 8.88 (1 H, br.s, D) in d6-dmso)

1	
実施例	原料化合物(II) (A:COOEt;X:CL) (Rスペクトル(δppm, n R ¹ R ² R ³ R ⁴ R ^{5ロトン数,型,[J=Hz])(solvent) 反応条件 2 Me Me Ac MeO MeH,s),1.94(3H,s),1.8~2.15(4}
7	, 2.23 (3 H, s), 2.63 (2 H, br.t, (II) 558 mg, TU 100 mg, 183 (1 H, dd, [15 ≥ 9]), 3.42 (1 H, ≥ 5]), 3.77 (3 H, s), 3.78 (3 H, s) (2 H, br.t, [6]), 4.45 (1 H, ≥ 5]), 6.87 (2 H, d, [9]), 7.19 (in d ₆ -acetone)
8	2 Me Me Ac Me Me, s), 1.87(2 H, br.t,[7]), I,s), 207(3 H, s), 2.14(3 H, (II) 1.6 分, TU300mg, S2mt 2 H分, nd), 2.64(2 H, br.t,[7] 1 H, dd, [15と9]), 3.41(1 H, 110-115℃, △3 hr と4.5]), 4.0-4.4(3 H, m), 4.70 d,[9と4.5]), 6.95(2 H, d,[9]) !,d,[9].) (in d ₆ -acetone)
9	2 Me Me H Me Me それらと一致 (II) 13.5 g, TU 4.4 g, S 20元 [, s), 1.6~22 (13 H分, nd), 2.2~ 110°C, △14 hr 分, nd), 2.80 (1 H, dd, [15と9]), 1 H分, nd), 3.9~4.3 (2 H, m), 5.5 d, [9と4.5]), 6.82 (2 H, d, [9]) [, d, [9]), 7.37 (1 H, s, D), [, br.s, D), 8.89 (1 H, br.s, D) (in d6~dmso)
略号説明等	TU:チオ尿素 oad:nd:他のシグナルまたは溶媒 s:スルホラン

実施例2に準じて星

		·
実 施 例	原料化合物 チアゾリジン(I) (Y=0,Z=NH) n R ¹ R ² R ⁵ R ⁴ R ⁵	n,プロトン数,型, [J=Hz]) (Solvent)
	反 応 条 件	
10	1 H Me Ac Me Me (I) 290mg, c.HCL3ml, 水1.5ml EGM5ml 加熱還流 3.5 hr	H, s), 206 (3 H, s), 1.5~2.25 (2 H分, nd), 2.87-35 (2 H分, nd), 4.87 (1 H, dd, [9 と 4]), 10 (2 H, d, [9]), 7.44 (1 H, H, br.s, D) (in d ₆ -dmso)
11	1 Me H Ac Me H (I) 170mg, 2NHCl 0.2ml EGM 2ml 95-97°, 6 hr	H, dd, [15と7]), 2.07(1H, dd, 2.68(2H, br.t, [7]), 3.06(1H, dd, [15と4.5]), 3.88(2H, AB型, [9]), (,s), 6.62(1H, s), 6.87(2H, d, 8.4~8.6(1H, br.s, D)(in CDCl ₅)
12	2 Me H Ac t-Bu H (I) 75mg, c.HCLO.5ml,水2ml EGM 2 ml 加熱還流 4 hr	1), 1.77(2H, br.t,[7]), 1.99(2H .t,[7]), 3.03(1H, dd,[15 \ 9]), 4.11(2H, br.t,[7]), 4.85(1H, s), 6.51(1H,s), 6.89(2H,d,[9] 3(1H, br.s,D), 11.3-12.7(1H, (in d6-dmso)
13	2 Me Me Ac MeO MeO (I) 560mg, c.HCl7ml, 水 2.5ml EGM 10ml 加熱還流 13 hr	r.t,[6]),2.10(3H,s),2.15(2H,t,[6]),3.09(1H,dd,[15\gredge9]),85(3H,s),3.95(3H,s),4.20(2dd,[9\gredge5]),5.40(1H,s,D),6.87d,[9]),8.1~8.4(1H,br.s,D) (in CDCl ₃)
14	2 Me Me H Me Me ex.13 亿华;	
略号説明	EM:エチレングリコールモノ メチルエーテル c.HCl:濃塩酸	ルまたは溶媒の吸収と重なり判別不可 1 H , dd , [9 と 4.5])

実施例3 に準じ、無水酢酸の代りに下表のアシル化剤を用いて、対応するチアゾリジン エステル類,例,を得た。それらは以下の物性値を有する。

$$\begin{array}{c}
\text{Me} & \text{Me} \\
\text{Me} & \text{O} & \text{CH}_2\text{O} \\
\text{R}^3 \text{O} & \text{Me}
\end{array}$$

$$\begin{array}{c}
\text{Me} & \text{O} & \text{CH}_2\text{O} \\
\text{CH}_2\text{O} & \text{CH}_2\text{O}
\end{array}$$

$$\begin{array}{c}
\text{(IV)} \\
\text{NH}
\end{array}$$

実施例	アシル化剤	n R R マススペクトル (m/e)	融 点(℃)	NMR-スペクトル ²⁾ (測 定 溶 媒)
15	酸クロリド	1 nC ₃ H ₇ CO-	147~150 ℃	1.06 (3 H, t, J=6 Hz) 1.65~2.2 (13 H, m) 2.45~2.75 (4 H, m) (CDCL ₃)
16	酸無水物	1 O-co- M*: 545	0.53 (B:4 EA:1	7.45~7.85 (3 H, m) 8.05~83 (2 H, m) (d ₆ -dmso)
17	酸クロリド塩酸塩	2 \ \(\sum_{N} \rightarrow \text{-co-} \\ M^+: 546	196~198 ℃	7.35~7.65 (1 H, m) 8.43~8.65 (1 H, m) 8.7~9.1 (1 H, m) 9.4~9.6 (1 H, m) (CDCL ₃)



実施例	アシル化剤		R ³ スペクトル (m/e)	融点(℃) TLC-Rf ¹⁾	NMR-スペクトル ²⁾ (測定溶媒)
18	酸クロリド 塩 酸 塩	2	√p)-co- +: 560	0.45 (B:1 EA:1	7.6~7.85 (1 H, m) 8.5~8.7 (1 H, m) 8.9~9.1 (1 H, m) 9.35~9.5 (1 H, m) (d ₇ -dmf)

1) シリカゲル薄層クロマトグラフィーによる Rf 値

2) (で) を特徴ずける, シグナルの1部

B:ペンゼン

EA: 酢酸エチル

30. 同第 60 頁 13 行目の「参考例 9 の記載」の後 に下記の語句を挿入する。



なお、前記一般式(I) 参考例 4 に準じて製₁性値を有する。

参考例	R ⁴ \	R ²	VI)(R ³	=Ac)	マススペ	クトル(m/e) M ⁺
	n	R ¹	R ²	R	$VII(R^5 = Ac)$) VI(R ³ =H)
10	1	H	. Me	M	385	3 4 3
11	1	Ме		М	371	3 2 9
12	2	Me	H	t-C	427	385
13	2	Me	· Me	Μє	4 4 5	403
14	2	Me	Me	M	413	371

1) Rf - 値:シリカゲ部を示した。;

3) 重水添加で消失する





参考例 5 に準じて製造された, 2 - (4 - アミノフェノキシアルキル) クロマン類, (MI), は以下の物性値を有する。

参考例	Aco n		(VII)	n-0-(C	NH ₂	融点 (°C) Rf -値 ¹⁾ (展開溶剤)	NMR-スペク トル ²⁾ (ppm) [J=Hz] (in CDCL ₃)	マススペク トル (m/e) M [*]
15	1	H	Мө	Ме	Ме	162.5- 164.5 0.11(B:9) EA:1)	3.37(2H, s) ³⁾ , 6.65 (2H,d, [9]), 6.85 (2H,d, [9])	355
16	1	Ме	Н	Me	н	0.52(B:1)	330(2H, s) ⁵⁾ ,660 (2H,d, [9]),676 (2H,d, [9])	3 4 1
17	2	Мө	H	t-Bu	н	0.15(B:5)	2.97-3.53 (2H,f) ³⁾ 6.63(2H, d,[9]), 6.77(2H, d,[9])	397

参考例	R ⁴ Aco	$\bigcup_{\mathbb{R}^2}^{\mathbb{R}^5}$	R ¹ (CH ₂) (VII) R ²		NH ₂	融点 (℃) Rf -値 ¹⁾ (展開溶剤)	NMR - スペク トル ²⁾ (ppm) [J=Hz] (in CDC <i>l</i> 3)	マススペク トル (m/e) M ⁺
18	2	Мө	Мө	MeO	MeO	0.43(^B :1)	323(2H, f) ³⁾ , 6.61 (2H, d, [9]), 6.77 (2H, d, [9])	415
19	2	Ме	Ме	Ме	Ме	0.14(B:10 EA:1)	328(2H, s) ³⁾ ,6.61 (2H,d, [9]),6.75 (2H,d, [9])	383

- 1) Rf、値:シリカゲル薄層クロマトグラフイーによる Rf 値
- 2) (図) を特徴づけるシグナルの一部を示した。
- 3) 重水添加で消失する。 f: broad singlet。

B:ベンゼン; EA:酢酸エチル

参考例 6 に準じて製造された,α-ハロゲノカカルボン酸エステル類,(II),は以下の物性値を有する。



	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		-γ	
参考例	$ \begin{array}{c c} R^4 & O \\ R^5 O & R^2 \end{array} $	\mathbb{R}^1 $\mathbb{C}(CH_2)_{H^-}O$ $\mathbb{C}O$ $\mathbb{C}CH_2CH^-A$ \mathbb{X} (II) \mathbb{R}^2 \mathbb{R}^5 \mathbb{R}^4 \mathbb{R}^5 \mathbb{R}^5 \mathbb{R}^4 \mathbb{R}^5 \mathbb{R}^5 \mathbb{R}^4 \mathbb{R}^5	融点 (°C) TLC-Rf ¹⁾ (展開溶剤)	NMR スペクトル ²⁾ δ(H数,型)[J=Hz] in CDCL ₃
20	1 H	Me Ac Me Me M ⁺ : 474	0.70(B:9)	2.7(2H,dd)[10及び5] 3.13(1H,dd)[15及び7.5] 3.30(1H,dd)[15及び7.5] 4.05~446(6H,m)
21	2 Me	. 3) Me H Me Me M ⁺ : 460	0.42(B:20 EA:1)	26(2H, br.t)[6] 3.11(1H, dd)[15及び7.5] 3.27(1H, dd)[15及び7.5] 4.05~4.5(6H, m)
22	1 Me	н Ac Me н M ⁺ : 460	0.45(B:20 EA:1	27(2H, br.t)[6] 312(1H, dd)[15及び7.5] 327(1H, dd)[15及び7.5] 38~4.45(5H, m)
23	2 Me	н Ac t-Bu н М ⁺ : 516	053(B:10 EA:1	27(2H, br.t)[6] 3.11(1H, dd)[15及び7.5] 3.27(1H, dd)[15及び7.5] 4.03-4.50(5H, m)
24	2 Me	Me Ac MeO MeO MeO M+: 534	0.45(B:9 EA:1	2.6(2H, br.t)[6] 3.10(1H, dd)[15及び7.5] 3.27(1H, dd)[15及び7.5] 407-4.46(5H, m)
25	2 Me	Me Ac Me Me M+: 502	0.39(B:20 EA:1	26(2H, br.t)[6] 306(1H, dd)[15及び7.5] 332(1H, dd)[15及び7.5] 405~4.45(5H, m)

- 1) シリカゲル薄層クロマトグラフィーによる Rf 値
- 2)(II)を特徴づけるシグナルの一部を示した。
- 5) アミノ体(畑) (R¹=R²=R⁴=R⁵=Me; R³=H; n=2)(参考例 28)を原料とした。

B:ペンゼン; EA:酢酸エチル

参考例 26

参考例1に準じて、

2-(6-ヒドロキシ-2.5,7,8-テトラメチル-2-クロマニル)エタノールと臭化ベンジルとを反応させ、ついで後処理および精製を行ない、

2 - (6 - ベンジルオキシ-2.5,7,8 - テトラメチル-2 - クロマニル)エタノールを得た。 薄層クロマトグラフイーによる Rf 値:0.31

[シリカゲル;展開溶剤:ベンゼン:酢酸エチル=10:1]

NMR $\mathcal{A} \sim \mathcal{O} + \mathcal{N}$ (δ ppm , CDC ℓ_3 +D₂O) :

1.31 (3 H , s) , 1.67 \sim 2.37 (4 H , m) ,

2.10 (3 н, в), 2.17 (3 н, в), 2.23

($3~{\rm H}$, s) , 2.65 ($2~{\rm H}$, br.t , $J{=}6{\rm Hz}$) ,

3.90 (2 H , t , J = 6 Hz) , 4.72 (2 H , s) , 7.3 ~ 7.65 (5 H , m) マススペクトル (m/e) : 340 (M⁺) 参考例 27

参考例2に準じて、

2-(6-ペンジルオキシ-2.5,7,8-テトラ. メチル-2-クロマニル) エタノールと p - ク ロロニトロペンゼンとを反応させ、ついで後処 理、および精製を行ない、6-ベンジルオキシ - 2 - { 2 - (4 - ニトロフエノキシ) エチル 】- 2. 5, 7, 8 - テトラメチルクロマンを得た。 薄層クロマトグラフィーによる Rf 値:0.43 [シリカゲル、展開溶剤:ベンゼン] NMR スペクトル (ð ppm , CDCl₃): 1.37 (3 H , s) , 1.90 (2 H , t , J=6Hz) , 2.11 (3 H , s) , 2.18 (3 H , s), 2.24 (3 H, s), 2.0 - 2.3 (2 H分, 重なりで判別不可), 2.66 (2 H , t , J = 6 Hz), 4.32 (2 H , t , J = 6 Hz), 4.73 (2 H , s) , 6.94 (2 H , d , J=9

参考例 28

参考例5 に準じて、

6 - ベンジルオキシー2 - {2-(4-ニトロフェノキシ)エチル}-2.5.7.8-テトラメチルクロマンを接触還元した。反応混合物を実施例5と同様に処理をおこなつて得られた相成的をシリカゲルカラムクロマトグラフィーに浴出するから2-{4-アミノフェノトの部分から2-{4-アミノフェノトの部分から2-{4-アミノフェノトトロキシー2.5.7.8-テトラメチルクロマンを得た。

薄層 クロマトグラフィーによる Rf 値: 0.36

[シリカゲル;展開溶剤:ベンゼン:酢酸エチ

ル = 3 : 2)

NMR スペクトル (δ ppm , CDCL3):

1.32 (3 H , s) , 1.87 (2 H , t , J = 6 Hz) , 2.10 (6 H , s) , 2.15 (3 H , s) ,



2.0 - 2.3 (2 H分, 重なりで判別不可),
2.64 (2 H, br.t, J = 6 Hz), 3.2 ~ 4.1
(2 H, br.S), 4.12 (3 H, t, J = 6
Hz), 6.60 (2 H, d, J = 9 Hz), 6.75
(2 H, d, J = 9 Hz)

マススペクトル (m/e) : 341 (M⁺)

31. 同第 6 2 頁最下行の「試験例 1 の記載」の後 に下記の語句を挿入する。

「試験例2 血糖低下作用

試験例1における化合物 A 及び比較化合物を粉末飼料(MM-1,船橋農場)に0.2%混合し、C57BL/6J-0b/0bマウス(雄性,4ヶ月令,1群4匹)に自由に2週間与えた。この間水は自由に与えた。試験終了時に尾静脈より血液を採血し、グルコースオキシダーゼ法にて血糖値を測定した。その結果、対照を100とすると、化合物 A は57、比較化合物 56 となり、すぐれた血糖低下作用を認めた。」



以上

This Page is inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

BLACK BORDERS
☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
FADED TEXT OR DRAWING
□ BLURED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
□ COLORED OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
☐ REPERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
OTHER.

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.
As rescanning documents will not correct images problems checked, please do not report the problems to the IFW Image Problem Mailbox